

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：32612
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21320147
 研究課題名（和文） 旧石器時代洞窟遺跡における人骨の探求とその生活跡の調査
 研究課題名（英文） Researches on the Paleolithic human bone and the trace of their
 life at the cave site

研究代表者
 阿部 祥人（ABE YOSHITO）
 慶應義塾大学・文学部・教授
 研究者番号：90175919

研究成果の概要(和文)： 下北半島の尻労安部洞窟における旧石器時代の層位から人骨の発見には至っていないものの、石器と大型および小型の動物骨を確実に共伴するかたちで検出することに成功した。また、シベリア産と考えられる石材を用いた石器を発見した。これはユーラシア大陸からの当時のヒトの移動に関する重要な証拠となる。

研究成果の概要(英文)： Although Paleolithic human bone is not yet discovered from the cave, we succeeded in finding stone implements, and large and small -scale animal bones together in the same layer. Moreover, a stone implement was discovered using the material thought to be Siberian product. This is an important evidence about the movement of the Homo sapiens from the Eurasian continent at that time.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2010年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
年度			
総計	11,300,000	3,390,000	14,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：旧石器時代 後期更新世 人骨 絶滅動物

1. 研究開始当初の背景

青森県・下北半島北端にある尻労安部洞窟（安部遺跡）(図1)では、動物骨や人骨の

出土が期待できる石灰岩洞窟から、旧石器とそうした有機質遺存体を同時に検出することを目的にして、2002年より毎年調査を行

い、縄文時代の各種遺物・動物骨・人骨等を得ていた。そして、2008年（平成20）年8月ついに、縄文時代よりは下部層準の15層（第3段階）から確実な旧石器遺物、ナイフ形石器1点を検出するに至った。

この第3段階の層準からは、大型偶蹄類の歯、焼骨、ウサギの骨なども発見されていたため、この遺跡における、旧石器時代、すなわち地質学での区分では後期更新世に属する人類活動の痕跡は確実なものとなった。



図1 尻芳安部洞窟（安部遺跡）

2. 研究の目的

研究の初期段階からの目的は、旧石器時代の人骨を発見することにあった。本研究のこの段階における最大の目的も、当然ながら、このことにある。

それに加えて、より多様な旧石器時代の遺物などを検出しながら、当時の人類活動を、より総合的に復元することを目指す。

3. 研究の方法

前述の目的に向けての最終的な方法としては、旧石器時代＝後期更新世の層準をより広範に発掘する点に尽きる。

さらには、これも当初より目的とした点ではあるが、遺物類の発見もれをいかにして最小限に食い止めるかにある。そのための、水洗選別の手法を、従来よりもさらに進展させ、効率のよい遺物回収方法をとる。

4. 研究成果

(1) 2009（平成21）年の大きな成果は、本遺跡の旧石器時代の層準から、新たなナイフ形石器（図2）と複数個体のウサギの歯を水洗選別（フルイ作業）によらず、原位置に

おいて多数とらえることに成功した（図3）ことがあげられる。このように、石器と動物骨が比較的まとまった範囲に確認できたことによって、出土動物へのヒトの関与の可能性がより高いものとなった。さらには、第3段階における偶蹄類の歯、ムササビに類するリス科の歯の存在を加えると、本遺跡における旧石器時代の人類活動の証拠がより多様で明確な形で得られた例として、日本列島における旧石器時代調査の中で初めての成果といえる。



図2 2009年出土のナイフ形石器

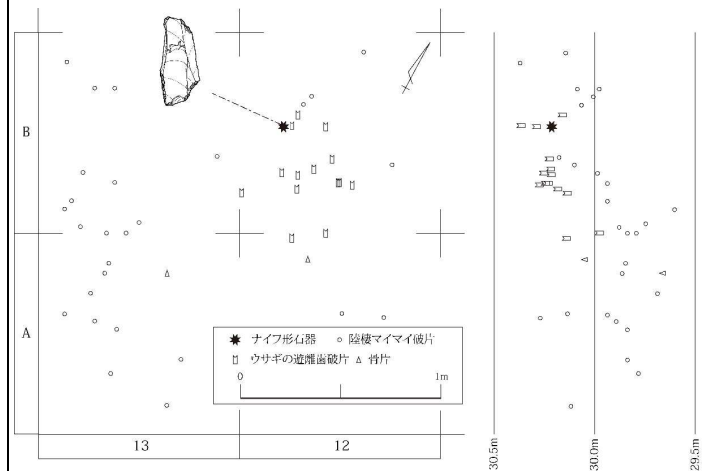


図3 ナイフ形石器とウサギの歯の出土状態

(2) 2009(平成21)年に前年出土のナイフ形石器に、サイズ・石質・製作技法・使用痕跡など様々点で類似する2点目のナイフ形石器が検出できた。これは、日本の旧石器文化が津軽海峡を挟んで大きく二分される点を考慮すると、その南半の代表たるナイフ形石器文化の確実な北限を示すものとして意義が、極めて大きい。

(3) 同じ第3段階における層から、2011(平成23)年に新たな旧石器として、トラピース(図4)を発見した。これは本州から西南日本における同種の石器(台形石器)の分布域からは、大きく外れたものであり、注目すべき遺物である。さらには、この石器の材質が、「カショロン」とよばれるシベリアに固有な特殊な石であることが、岩石学者によって指摘されている。

こうした点を勘案すると、この研究の現状では未だ、初期の目的の旧石器時代人骨は発見できていないものの、日本列島及びその周辺地域との関連において、情報が極めて乏しい旧石器時代=後期更新世のヒトの動き・移動についての非常に重要な成果を得たものと言える。

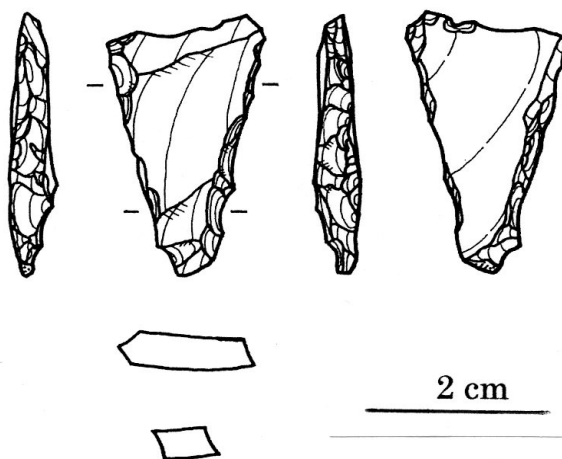


図4 2011年出土のトラピース



図5 尻労安部洞窟の第3段階の層

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

澤浦亮平 旧石器時代の狩猟活動 考古学ジャーナル 625 11-14 2012年 査読有

阿部祥人 旧石器時代文化層における動物遺存体 下北半島・尻労安部洞窟 近年の調査 古代文化 62-2 138-140 2010年 査読有

[学会発表](計8件)

阿部祥人 奈良貴史 渡辺丈彦 澤田純明 澤浦亮平
安部遺跡(尻労安部洞窟)
第25回東北日本の旧石器文化を語る会
2011年12月17日 アピア青森(青森県)

阿部祥人 奈良貴史 澤田純明 米田穂 澤浦亮平ほか
安部遺跡(尻労安部洞窟) - 旧石器時代の洞窟遺跡 - 平成23年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会 青森総合社会教育センター
2011年12月10日

Yoshito Abe Takashi Nara Takehiko Watanabe Minoru Yoneda Junmei Sawada

Anthropological and archeological research at the Shitukari-Abe cave, Northernmost of Honshu

Dual Symposia The Emergency and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia 国立科学博物館(東京)

2011年11月1日

Takashi Nara and Yoshito Abe
Anthropological and archeological research
at the Shitukari-Abe cave ,
Aomori prefecture
International Symposium
Siberia and Japan in Late Paleolithic
Period
2010年11月27日 慶應義塾大学

Yoshito Abe
Characteristics and issues of Paleolithic
research in Japanese Archipelago
International Symposium
Siberia and Japan in Late Paleolithic
Period
2010年11月27日 慶應義塾大学

奈良貴史 阿部祥人 佐藤孝雄 澤田純
明 渡辺丈彦 米田 穰
青森県尻労安部洞窟発掘調査 第64回日本
人類学会大会 骨考古学分科会シンポジウ
ム「更新世人類化石研究の現状と問題点:沖縄
県白保竿根田原洞穴発掘調査の速報を中心
に」 北海道伊達市
2010年10月3日

阿部祥人 奈良貴史 渡辺丈彦 澤田純
明 澤浦亮平
安部遺跡(尻労安部洞窟)
第23回東北日本の旧石器文化を語る会
2009年12月26日 福島県立博物館

阿部祥人 奈良貴史 渡辺丈彦 澤田純
明 米田穰ほか
安部遺跡(尻労安部洞窟) - 旧石器時代の洞
窟遺跡 - 平成21年度青森県埋蔵文化財発掘
調査報告会 青森県社会教育センター
2009年12月12日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 祥人 (ABE YOSHIHITO)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：90175919

(2) 研究分担者

佐藤 孝雄 (SATO TAKAO)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：20269640

(3) 連携研究者

奈良 貴史 (NARA TAKASHI)
日本歯科大学・歯学部・准教授
研究者番号：30271894

鈴木 敏彦 (SUZUKI TOSHIHIKO)
東北大学・歯学研究科(研究院)・助教
研究者番号：70261518

澤田 潤明 (SAWADA JUNMEI)
聖マリアンナ医科大学・医学部・助教
研究者番号：10374943

米田 穰 (YONEDA MINORU)
東京大学・新領域創成科学研究科・准教授
研究者番号：30280712